

5. 現地使用事例

フルメット液剤：花穂発育促進

H26年度社内試験(山形県)

H型 短梢 簡易雨よけ 樹齢3～5年生(結実1～3年目)

展葉7～8枚：フルメット2ppm

開花始期：摘心 房先6枚

1回目処理：ジベレリン25ppm+フルメット3ppm

2回目処理：ジベレリン25ppm+フルメット5ppm



結実1年目樹 試 験 成 績		果房重	着粒数	1粒重	果皮色	糖度
	5房平均値	554.5	52.0	10.6	4.0	18.7
結実3年目樹 試 験 成 績		果房重	着粒数	1粒重	果皮色	糖度
	5房平均値	556.6	40.6	13.3	4.0	19.3

- ・結実3年目樹は摘粒により着粒数を減らした
- ・結実3年目で13g/粒の果粒が得られた

単位：重量(g)、糖度(Brix)
果皮色：山形県カラーチャートによる

H24年度社内試験(香川県)

H型 短梢 無加温ハウス

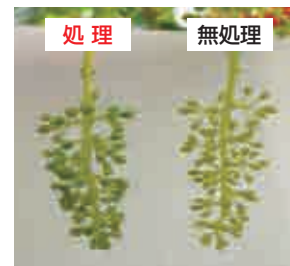
樹齢4年生(結実2年目)

①展葉6～8枚：フルメット2ppm

②1回目処理：ジベレリン25ppm

+フルメット5ppm

③2回目処理：ジベレリン25ppm



第1回目処理後①の花穂



フルメット液剤
花穂発育促進処理①～③
(普通樹)

フルメット液剤
花穂発育促進処理①～③
(強樹勢区)

無処理区
ジベレリン②③
2回処理のみ

2回目ジベレリン処理時フルメット加用の果粒肥大効果

H26年度社内試験(山形県)

H型 短梢 簡易雨よけ 樹齢6年生

展葉10枚時：ストレプトマイシン処理

開花前：摘心

1回目ジベレリン処理：ジベレリン25ppm+フルメット2.5ppm

2回目ジベレリン処理：ジベレリン25ppm+フルメット5ppm

〈果房品質調査〉

・各10房調査(平均値) ・カラーチャート(山形県)使用

試験区	果房重	粒数	1粒重	果皮色	糖度
慣行(2回目フルメット5ppm混用なし)	529.6	44.8	11.7	3.8	20.1
2回目フルメット5ppm混用	619.2	40.8	15.0	3.6	18.9

- ・2回目フルメット混用により15g/粒の果粒が得られた。
- ・糖度への影響は少なかった。



9月30日 収穫調査

使用上の注意

- ・ジベレリン協和 粉末・錠剤、フルメット液剤の使用に当たっては、製品に添付されている使用説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場に放置せず適切に処理してください。

30H3C18G42：KP

2018年3月作成(協和キリンプラス)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

住友化学

〒104-8260 東京都中央区新川1丁目27番1号

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト 農力 <https://www.i-nouryoku.com>



シャインマスカットへの ジベレリン協和 粉末・錠剤 フルメット®液剤の使用法

※フルメットは住友化学株式の登録商標



ジベレリン協和錠剤(ジベレリン4.55%)
農林水産省登録第15697号



ジベレリン協和粉末(ジベレリン3.1%)
農林水産省登録第6007号



フルメット液剤(ホルクコロフェニロン0.10%)
農林水産省登録第17247号

目次

1. ジベレリンによる無種子化、果粒肥大促進(2回処理) P2
2. ジベレリンとフルメットによる無種子化、果粒肥大促進(1回処理) P4
3. フルメットによる着粒安定 P5
4. フルメットによる花穂発育促進 P6
5. 現地使用事例(山形県・香川県) P7

住友化学

シャインマスカットへの ジベレリン協和 粉末・錠剤 及びフルメット液剤の登録

ジベレリン協和 粉末・錠剤 登録内容〈抜粋〉

2016年11月16日現在

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む農薬の総使用回数
ぶどう (2倍体欧州系品種) [無核栽培]	無種子化 果粒肥大促進	第1回目 ジベレリン25ppm 第2回目 ジベレリン25ppm	満開時～満開3日後 (第1回目) 及び 満開10～15日後 (第2回目)	2回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	第1回目：花房浸漬 第2回目：果房浸漬	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
		ジベレリン25ppm	満開3～5日後 (落花期)	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	花房浸漬(ホルクロルフェニユロン10ppm液に加用)	
	果房伸長促進	ジベレリン3～5ppm	展葉3～5枚時	1回	花房散布	

フルメット液剤 登録内容〈抜粋〉

2016年12月14日現在

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ホルクロルフェニユロンを含む農薬の総使用回数
ぶどう (2倍体欧州系品種) [無核栽培]	着粒安定	ホルクロルフェニユロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	1回、但し降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬(ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行)	3回以内、但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内
	果粒肥大促進	ホルクロルフェニユロン 5～10ppm	満開10～15日後		満開時～満開3日後に使用する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬(ジベレリン第2回目処理は慣行)	
	無種子化 果粒肥大促進	ホルクロルフェニユロン 10ppm	満開3～5日後 (落花期)		ジベレリンに加用 果房浸漬(ジベレリン第1回目処理は慣行)	
	花穂発育促進	ホルクロルフェニユロン 1～2ppm	展葉6～8枚時		花房散布	

1 ジベレリンによる 無種子化、果粒肥大促進(2回処理)

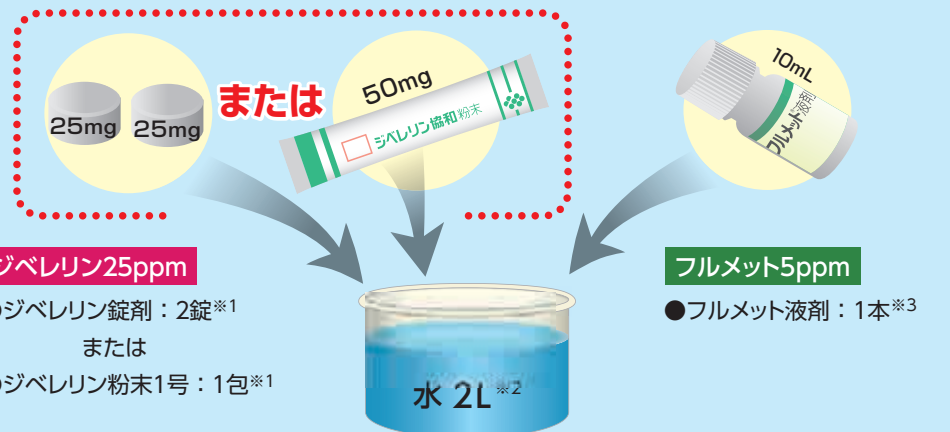
第1回目

ジベレリン(無種子化)+フルメット(着粒安定)

使用濃度

ジベレリン25ppm+フルメット5ppm
で安定した効果が得られます。

薬液の調製方法



※1：ジベレリン50mg ※2：薬剤+水の総量 ※3：フルメット10mg

第1回目処理時期の目安

使用時期

満開時～
満開3日後

満開時



満開3日後



2 ジベレリンとフルメットによる 無種子化、果粒肥大促進(1回処理)

第1回目処理のポイント

- 使用時期や使用濃度を誤ると、花振り、着粒過多、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守してください。
- 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特にていねいに処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意してください。
- 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで、無核果率の向上を図ることができます。使用に当っては、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守してください。

第2回目 ジベレリン(果粒肥大促進)

使用濃度 ジベレリン25ppm

使用時期 満開10～15日後

第2回目処理のポイント

- 薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落としてください。

第2回目処理時期の目安



満開3～5日後にジベレリンとフルメットの混合液を1回処理することで、無種子化と果粒肥大を同時に促すことができます。

使用濃度 ジベレリン25ppm+フルメット10ppm

使用時期 満開3～5日後(落花期)

処理時期の目安



薬液の調製方法



1回処理のポイント

- 若木や樹勢の弱い樹では、十分な効果が得られない場合があります。初年度は園地の一部で効果を確認することをお薦めします。
- 処理日が分散すると房の生育差が発生しやすいので、処理前の生育を揃えて処理日が分散しないように心掛けてください。
- 従来の2回処理に比べて初期肥大が良好なため、処理後はできるだけ早く摘粒を行ってください。
- 処理時期が遅れると花振りする場合があります。適期処理を心掛けてください。
- 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで、無核果率の向上を図ることができます。なお、使用に当ってはストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守してください。

3 フルメットによる着粒安定

開花始め～満開前にフルメット液剤を処理することで着粒効果が得られます。

使用濃度 フルメット2～5ppm

使用時期 開花始め～満開前

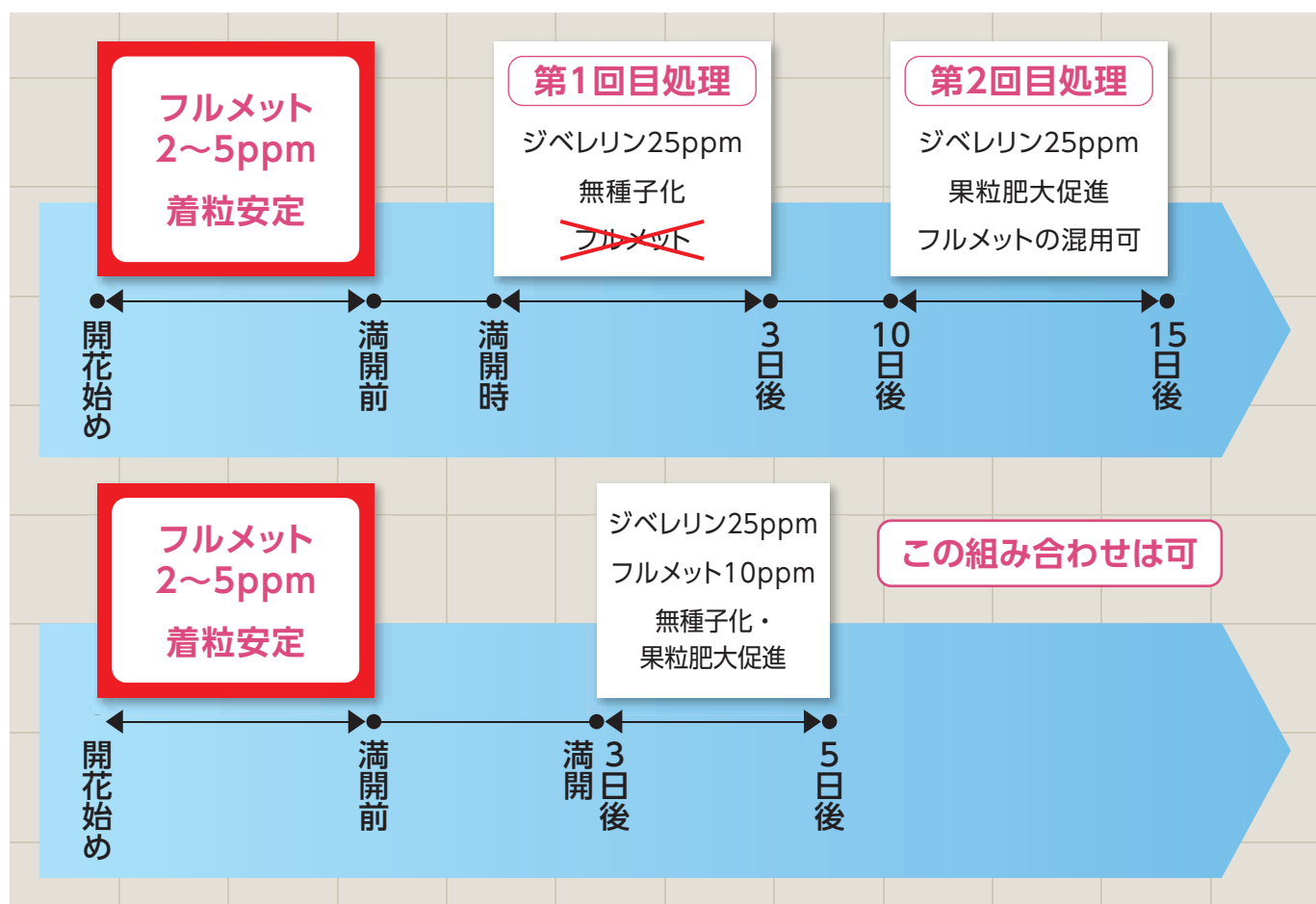
使用上の注意

〈ジベレリン2回処理体系〉

フルメット液剤を開花始めから満開前に処理した場合、第1回目ジベレリン処理時は使用できません(第2回目ジベレリン処理時の使用は可)。

〈ジベレリン1回処理体系〉

満開3～5日後(落花期)のジベレリンとフルメットの組み合わせ使用は可能です。



4 フルメットによる花穂发育促進

展葉6～8枚時にフルメット液剤を処理することにより、花穂の发育を充実させることができます。特に若木に対して有効です。

使用濃度 フルメット1～2ppm

使用時期 展葉6～8枚時



薬液の調製方法

2ppm薬液の作り方



使用例 (ジベレリン2回処理体系での組み合わせ)

